

東京文化戦略2030

3か年のアクションプラン(2025 - 2027)

令和7年（2025年）3月

生活文化スポーツ局

目次

「戦略」と戦略実行のための「推進プロジェクト」（体系図）	3
戦略1 人々のウェルビーイングの実現に貢献する	4
戦略2 人々をインスパイアする	35
戦略3 芸術文化のハブ機能を強化する	54
戦略4 持続性のある芸術文化エコシステムを構築する	66

「東京文化戦略2030アクションプラン」とは

- 東京都は、2022年度から2030年度までの間における東京都の文化行政の方向性や重点施策を示した「東京文化戦略2030」（以下「文化戦略」という。）を2022年3月に策定しました。
- この文化戦略では、2040年代における東京のあるべき姿（将来像）を描き、その実現に向けた4つの戦略及び10の推進プロジェクトを位置づけています。
- この推進プロジェクトに基づき、**東京都、東京都歴史文化財団及び東京都交響楽団が重点的に実施する事業の3か年計画を定めたものが「東京文化戦略2030アクションプラン」（以下「本アクションプラン」という）**です。
- 2030年に向け、本アクションプランに記載する各事業を着実に進めることで、文化戦略が目指す将来像の実現を図っていきます。
- なお、本アクションプランは2025年3月時点で想定している内容であり、事業の進捗や社会経済情勢等の状況を踏まえ、毎年度更新する計画です。

4つの「戦略」 及び 10の「推進プロジェクト」 (体系図)

戦略1 誰もが芸術文化に身近に触れられる環境を整え、人々の幸せに寄与する



～人々の**ウェルビーイング**の実現に貢献する～

プロジェクト1

地域活性化プロジェクト (芸術文化の敷居を低くする取組)

プロジェクト2

だれもが文化でつながるプロジェクト

プロジェクト3

キッズ・ユース (Kids and Youth) ・プロジェクト

戦略3 国内外のアートシーンの中心として、世界を魅了する創造性を生み出す



～芸術文化の**ハブ**機能を強化する～

プロジェクト7

アート・ハブ (Art Hub) ・プロジェクト

プロジェクト8

海外発信プロジェクト

戦略2 芸術文化の力で、人々に喜び、感動、新たな価値の発見をもたらす



～人々を**インスパイア**する～

プロジェクト4

スマート・カルチャー・プロジェクト(デジタルテクノロジーを活用する取組)

プロジェクト5

「アートのある生活」プロジェクト

プロジェクト6

アート&エンターテインメント・プロジェクト

戦略4 アーティストや芸術文化団体等が継続的に活動できる仕組みをつくる



～持続性のある芸術文化**エコシステム**を構築する～

プロジェクト9

アーティスト・ステップアップ・プロジェクト

プロジェクト10

担い手育成・支援&創作環境向上プロジェクト

戦略 1

人々のウェルビーイングの実現に貢献する

プロジェクト 1

地域活性化プロジェクト

- 1-1 東京大茶会
- 1-2 伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル～
- 1-3 ヘブンアーティスト
- 1-4 大人のための伝統文化・芸能体験事業
- 1-5 地域で芸術文化に親しめる環境創出事業
- 1-6 地域芸術文化活動応援助成
- 1-7 伝統芸能体験活動助成
- 1-8 アート・カルチャー体験100
- 1-9 TOKYO CITY CANVAS
- 1-10 アーツカウンシル東京のリサーチ機能強化
- (再掲) 6-7 総合的な国際芸術祭

1－1 東京大茶会

【事業概要】
様々な流派による伝統的な茶席や野点のほか、親子で体験できる茶道教室、英語や手話で解説をする茶席や野点、日本の伝統文化を楽しめるワークショップやパフォーマンスなどによる大規模な茶会を江戸東京たてもの園及び浜離宮恩賜庭園で開催し、誰でも気軽に茶会に参加できる機会を提供する。**【事業開始年度 平成20年度（2008）】**
主催：東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

【3年後の目標】
地域の団体等と連携し、伝統文化に触れる機会がなかった人々に参加、体験する機会を提供できるような参加誘因策や効果的な広報手段等も図りながら、さらなる普及が図られている。
担い手の減少等により衰退の危機にある伝統文化について、その魅力を発信するとともに、子供や若者が体験や参加することにより、次世代へ継承するきっかけとなっている。

【2024年度実績】
茶席や野点、伝統芸能のパフォーマンス等を楽しめる茶会を開催

開催時期・場所：
2024年10月19日（土）、20日（日） 江戸東京たてもの園（小金井市）
2024年10月26日（土）、27日（日） 浜離宮恩賜庭園（中央区）

プログラム：茶席、野点、子供と楽しむ茶席、英語で楽しむ茶席・野点、高校生野点
その他プログラム：華道体験、ヘブンアーティストによる伝統芸能のパフォーマンス等
来園者数：約1万5千人

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
東京大茶会	開催準備 → ★ 開催（秋ごろ）	事業の評価・検証を反映し運用 → ★ 事業の 評価・検証	

【事業概要】

多摩地域が保有する地域の文化資源を活用して、まちなかでの演奏会や屋外ステージを舞台にした本格的な公演などをフェスティバルとして実施し、多彩な伝統文化・芸能の魅力を発信する。【事業開始年度 平成28年度（2016）】
主催：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、八王子市、公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団
助成・協力：東京都

【3年後の目標】

多くの多摩地域の市町村と連携・協力体制を構築し、参加誘因策や効果的な広報手段等も図りながら、街なかに様々な伝統文化が集う多彩なフェスティバルに発展している。
伝統文化に馴染みのない方々も気軽に親しめる多様なプログラムにより、伝統文化の鑑賞・参加機会を提供するとともに、若手実演家へ活躍機会を設けるなど、地域に根差している伝統芸能を次世代へ継承するきっかけとなっている。

【2024年度実績】

多摩地域の伝統文化・芸能に親しめるフェスティバルを開催
開催時期：2024年9月28日（土）、29日（日）
開催場所：JR八王子駅北口（西放射線ユーロード）、中町公園他
プログラム：八王子車人形とダンスのコラボ企画、八王子芸妓衆、祭囃子、人力車お練り、茶会、影絵＜写し絵＞、多摩織展示、体験（Kinon・昔の遊び・織物）、人力車乗車体験等
来場者数：約3万人

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
伝承のたまてばこ ～多摩伝統文化フェ スティバル～	開催準備 → ★ 開催	事業の評価・検証を反映し運用 → ★ 事業の 評価・検証	

1 - 3 ヘブンアーティスト

【事業概要】

都が審査・選定し、ライセンスを発行したアーティストに、都立公園や都内民間施設などの公共空間を活動場所として開放することで、都民や東京都を訪れた方が気軽に芸術文化に触れる機会を提供するとともに、アーティストの技芸研鑽の場を確保し、新たな文化創造支援と東京の魅力発信を図る。【事業開始年度 平成14年度（2002）】
（登録アーティスト：パフォーマンス部門398組、音楽部門100組 2025年1月末時点）

【3年後の目標】

都民や東京を訪れる方に身近な場所での実演はもとより、世界陸上2025・東京2025デフリンピックなどの大規模イベントを発信の機会と捉えて、都民が身近に文化を体験でき、アーティストが創造・表現する場を創出している。

【2024年度実績】

都内54施設72カ所を活動場所として開放。まちなかでのパフォーマンスを通じて気軽に芸術文化に触れる機会を提供。

- ・ヘブンアーティストTOKYO2024の開催
約150組のアーティストが一堂に会し、パフォーマンスを披露
開催時期：2024年10月25日(金)～27日(日)
開催場所：上野恩賜公園
3日間の観客数：約15,000人
- ・2024年9月9日(月)～11日(水)に公開審査会を実施。応募アーティスト142組のうち25組が合格し、ヘブンアーティストとして登録（パフォーマンス部門20組、音楽部門5組）

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
ヘブンアーティスト	主催・共催イベント：年4回 アーティストの日常活動 審査会の実施	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

1-4 大人のための伝統文化・芸能体験事業

【事業概要】

伝統文化・芸能を1日で体感できるプログラム（専門家等によるトーク、プロの実演家等による体験指導と実演で構成）を開催。伝統文化・芸能の様々なジャンルについて、その魅力を学び、体験する機会を提供するとともに、オンラインで国内外に発信する。【事業開始年度 令和4年度（2022）】

【3年後の目標】

関連する文化体験事業との統合も視野に事業を再整理し、質の高い伝統文化・芸能を体験できる事業の強みを生かし、きっかけさえあれば参加する意思のある層を呼び込みながら、日本文化の魅力を広く都民に伝えている。

【2024年度の実績】

伝統芸能のトーク、体験と鑑賞をセットにしたプログラムを4回実施

演目	開催時期	開催場所	定員数
いけばな 日本舞踊	2024年9月22日（日・祝）	竹の塚地域学習センター （足立区）	80人程度
雅楽	2024年11月30日（土）	玉川区民会館 （世田谷区）	80人程度
能楽	2024年12月14日（土）	宝生能楽堂 （文京区）	340人程度
講談 太神楽曲芸	2025年1月18日（土）	たましんRISURUホール （立川市）	80人程度

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
大人のための伝統文化・芸能体験事業	江戸東京伝統芸能祭（仮称）に統合し実施	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

1－5 地域で芸術文化に親しめる環境創出事業

【事業概要】

地域のニーズや課題に即したプログラムの提供や持続的なアートプロジェクトを都と多様な主体（区市町村、NPO、企業等）が連携して展開することで、地域の日常のなかで都民が気軽に芸術文化に触れる機会を創出するとともに、地域（区市町村）の芸術文化活動を軸に場や人が活性化することを推進する。

（R6年度に、R5年度開始の区市町村連携事業と東京アートポイント計画を統合）

【事業開始年度 R5年度(2023)（東京アートポイント計画事業はH21年度開始）】

【3年後の目標】

都内各自治体で展開される様々な文化施策の知見と共有が進むよう、都がネットワークの核となるとともに、芸術文化を鑑賞・体験する(しない)人の地域別割合等も分析しながら、地域のニーズや課題に即した様々な連携事業を都内各所で展開することで都民が身近に芸術文化へ触れられる環境を広げている。

【2024年度の実績】

- ・東京都・区市町村文化行政ネットワーク会議：2回開催（2024年6月、2025年2月）
- ・区市町村等職員向け文化行政講座：3回実施（2024年6月、10月、2025年2月）
- ・東京都・区市町村連携事業：3区市と実施。
府中市(2024年10月～3月)、中野区(2025年2月)、西東京(2025年3月)
- ・東京アートポイント計画：
まちなかなどでアートに触れる機会を創出するため、アーティストと市民が協働するアートプロジェクトを6件実施。
環境整備事業として、アートに関わる拠点運営者たちに課題展望を聞くプログラムを通年実施したほか、アートプロジェクト運営に関わる実践講座を開催。

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
東京都・区市町村文化行政ネットワーク会議	★第1回 (春) ★第2回 (秋冬)	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証
区市町村等職員向け講座	年間3回程度実施	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証
東京都・区市町村連携事業 東京アートポイント計画	希望調査・事業企画実施・ アートプロジェクト実施	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証

1 - 6 地域芸術文化活動応援助成

【事業概要】

都内の各地域の特色ある文化の醸成・発展を促進する芸術文化活動や、都内の各地域の文化財や文化資源を未来に向けて継承し、その魅力を地域内外に広く発信する取組を支援する。【事業開始年度 令和5年度（2023）】

【3年後の目標】

都内の無形民俗文化財の公開活動や有形文化財を活用した事業、地域の文化資源を活用する事業や文化的魅力を高める事業を支援することで各地域の振興に寄与している。

【2024年度の実績】

助成上限額：50万円(区分1)、200万円(区分2)

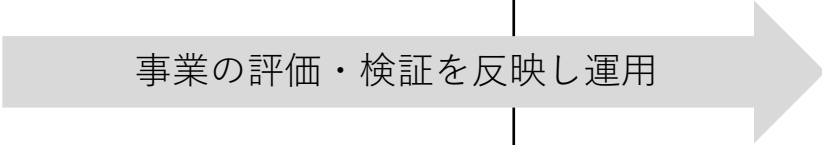
区分2は多くの人(1,000人以上目途)が参加する事業が対象

助成率：1/2

申請受付：【第1期】2024年3月21日～4月22日

【第2期】2024年6月13日～7月16日

採択(申請)件数：【第1期】26(73)件、【第2期】28(63)件

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
地域芸術文化活動 応援助成	地域の芸術文化に誰もが触れ 参加できる環境づくり、芸術 文化を通じた地域の活性化や 地域振興を目的とする活動を 助成により支援		
			★ 事業の 評価・検証

1 - 7 伝統芸能体験活動助成

【事業概要】

伝統芸能のさまざまな種目について、初めての人でも入り易く、かつ継続的に自ら実技体験ができる事業を助成する。

【事業開始年度 令和3年度（2021）】

【3年後の目標】

伝統芸能の面白さを体感する機会の提供を後押しし、伝統芸能が暮らしの中に根付き日常的にお稽古に通う人の拡充へとつなげることで、伝統芸能の振興に寄与している。

【2024年度の実績】

伝統芸能体験活動助成

助成上限額：100万円

助 成 率：1/2

申 請 受 付：2024年3月1日～5月8日

採択(申請)件数：18(34)件

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
伝統芸能体験活動 助成	伝統芸能の振興に向けて、自ら伝統芸能の実技体験を行う人が増えるための取り組みを助成により支援	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

1－8 アート・カルチャー体験100

【事業概要】

都立文化施設の体験型事業（1日～短期、通年実施プログラム、オンラインプログラム）の情報を集約し、ウェブサイトで発信することにより、都民が芸術文化を気軽に体験できるようにする。【事業開始年度 令和元年度（2019）】

【3年後の目標】

閲覧を増加させるための広報施策等を実施のうえ、正確でタイムリーかつ分かりやすい情報発信等を通じて、芸術文化体験の機会の創出を増加させる。

【2024年度の実績】

PV数：4,970PV（2024年4月1日～2025年1月31日現在）

新規公開件数：367件（2024年4月1日～2025年1月31日現在）

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
アートカルチャー 体験100	情報の発信・広報施策の実施		

※歴史文化財団自主事業

1 - 9 TOKYO CITY CANVAS

【事業概要】

工事現場の仮囲い等をキャンバスに見立てたアートプロジェクトの展開を通じて、誰もが身近にアートを楽しむ環境創出やアーティストの活動領域の拡大を推進【事業開始年度 令和6年度（2024）】

【3年後の目標】

都有施設でのアート掲出や民間助成を通じて東京にアートの景色を広げていく取組を進めるとともに、Webコンテンツを開発したりSNSを通じた優良事例や助成事業の発信・紹介を図るとともに、自治体の担当者や民間事業者へ直接説明する機会も設けながら都民や事業者の魅力や理解を広げていく。

【2024年度実績】

● 都有施設（直営）

都立駒沢公園：2024年4月～2025年2月

（原田 郁/Symbiotic Landscape）

都庁舎エントランス前：2024年9月～2025年2月

（大巻 伸嗣/みずのはし）

江戸東京博物館：2024年11月～2025年9月（予定）

（小牟田 悠介/写楽の眼・未来人の発見）

都立代々木公園：2025年3月～2026年3月（予定）

（Tokyo Photographic Research）

● TOKYO CITY CANVAS助成（民間助成）

助成上限額：2000万円 助成率 1/2

申請受付：【第1期】 2024年7月16日～2024年8月23日

【第2期】 2024年12月13日～2025年1月31日

採択（申請受付）件数：【第1期】 1件（申請受付：10件）

【第2期】 2件（申請受付：4件）

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
都有施設（直営）	3か所程度で新規掲出	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証
TOKYO CITY CANVAS助成	公募・助成	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証
優良事例の紹介等	Webコンテンツ等の制作（新規） 優良事例の紹介	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証

【事業概要】

アーツカウンシル東京に「東京の文化」に関するコンサル・リサーチ機能を導入し、データに基づく施策・方針づくりに活用。

【事業開始年度 令和7年度（2025）】

【3年後の目標】

都全体の政策と文化政策をつなぐ効果的な調査結果が蓄積しており、そのリサーチ成果を施策・方針づくりに活用。また、区市町村にも共有し、東京全体の文化振興や地域活性化につなげるとともに、国内外の会議やシンポジウム等で成果発信し、都のプレゼンス向上やネットワーク拡大につなげている。

【2024年度実績】

2025年度新規事業

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
リサーチを実施	・ 都内文化資源の基礎データ収集・分析・整理 ・ リサーチ・マネジメントを実施	事業の評価・検証を反映し運用 ★事業の評価・検証	

プロジェクト 2

だれもが文化でつながるプロジェクト

- 2-1 クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー
- 2-2 アール・ブリュット
- 2-3 芸術文化による社会支援助成
- 2-4 芸術文化へのアクセシビリティ向上
- 2-5 世界陸上・デフリンピックに向けたアートプロジェクト

2－1 クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー

【事業概要】

芸術文化の力や都立文化施設の資源を活用し、高齢化や共生社会など東京の社会課題の解決に取り組むため、芸術文化による社会包摂とウェルビーイングを推進する。

また、誰もが芸術文化を楽しめるように、文化施設・事業のアクセシビリティを向上させる情報保障ツールやサポートの先進的かつ質を高める取組を検証・展開する。 【事業開始年度 令和3年度（2021）】

【3年後の目標】

東京2025デフリンピック開催を契機に、誰もが芸術文化に触れられるよう、芸術文化へのアクセシビリティ向上の取組をさらに進め、その取組や成果について国際カンファレンス等で発信することで、国内外に取組が広がり、社会包摂とウェルビーイングにおける東京の先進性により、都市のプレゼンスを高めている。

文化施設やNPO等と連携し実施するパートナープログラムの取組が社会全体に波及し、多様な人々が芸術文化を楽しめている。

【2024年度の実績】

- ・「だれもが文化でつながる国際会議－文化と居場所－」を開催（2024年10月29日（火）～2024年11月3日（日・祝））
- ・文化施設や外部団体等と連携して取り組むパートナープログラムを実施
- ・TURN LAND プログラムを都内(区部・多摩)で実施

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
だれもが文化でつながる国際会議	国内会議を開催	国際会議を開催	国内会議を開催 ★ 事業の 評価・検証

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
高齢者、障害者、外国人、乳幼児等多様な人々を対象とした、環境整備のためのプログラムの実施	文化施設やNPO等と連携して取り組むパートナープログラムを実施	取組の成果を国際会議で国内外に発信・共有	事業の評価・検証を反映し運用 ★事業の評価・検証
他分野連携プログラム（TURN LAND プログラム）の実施	【TURN LAND】 プレLANDからの移行施設・団体検討、実施体制の構築、プログラム実施 【プレLAND】 参加団体・アーティスト等の調査及びマッチング、実施体制の構築、プログラム実施	事業の評価・検証を反映し運用	★事業の評価・検証

※TURN LAND プログラムは福祉事業所・施設や社会的支援を行う団体がアーティストとともにアートプロジェクトを企画し、実践するプログラムです。プロジェクトの実践を通して多様な価値観や特性への理解を深めながら、より魅力的な活動を日常の中に生み出します。

2-2 アール・ブリュット

【事業概要】

アール・ブリュット(※)を含む様々な作品、作家とその背景を通じた展示等により、人々が多様な創造性に触れ、新たな価値の発見につながる機会を創出する。

※アール・ブリュット (Art Brut) は、フランスの芸術家ジャン・デュビュッフエによって提唱されたことば。今日では、広く、専門的な美術の教育を受けていない人などによる、独自の発想や表現方法が注目されるアートを表す。

【事業開始年度 平成29年度 (2017)】

【3年後の目標】

アール・ブリュットの拠点となる渋谷公園通りギャラリーでの展覧会のほか、区市町村と連携した巡回展での展示等を通じて作家の発信機会とアール・ブリュット作品に触れる機会が充実することで、他者への共感と理解の深化、創造性の発揮など芸術文化が持つ多様な価値と役割が社会により浸透している。

【2024年度の実績】

・渋谷公園通りギャラリーで4つの展覧会を開催

・区市町村等と連携して巡回展を開催

【展覧会】

・かつしかシンフォニーヒルズ展示室 2025年1月17日(日)から1月26日(日)まで

・三鷹市芸術文化センターギャラリー 2025年1月31日(金)から2月12日(水)まで

【出張イベント】

・大島町開発総合センター(大島町役場) 大集会室 2024年11月16日(土)

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
拠点での展示事業等	年4回の展覧会等を開催	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証
区市町村と連携した 巡回展・イベント	都内で区市町村等と連携した 展示等を実施（3か所）	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証

2－3 芸術文化による社会支援助成

【事業概要】

さまざまな社会環境にある人が共に参加し、個性を尊重し合いながら創造性を発揮することのできる芸術活動や、芸術文化の特性を活かし社会や都市のさまざまな課題に取り組む活動を支援する。 【事業開始年度 平成27年度（2015）】

【3年後の目標】

経済的理由による鑑賞・体験格差にも着目し、子供の芸術鑑賞や体験機会の格差解消に取り組む事業を重点的に支援するなど社会情勢を捉えた制度の見直しを適宜図ることで、様々な理由により芸術への参加機会を制限されている人々が芸術文化を享受できる環境の整備に寄与している。

【2024年度の実績】

芸術文化による社会支援助成を2回実施

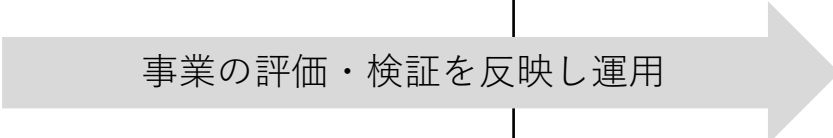
助成上限額：200万円

助成率：2/3

申請受付：【第1期】2024年2月1日～3月5日

【第2期】2024年6月27日～8月6日

採択(申請)件数：【第1期】14(43)件、【第2期】9(38)件

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
芸術文化による 社会支援助成	芸術文化の特性を活かし社会 や都市のさまざまな課題に取り 組む活動を助成により支援		
			★ 事業の 評価・検証

2-4 芸術文化へのアクセシビリティ向上

【事業概要】

都立文化施設において、手話通訳をはじめとした公演の鑑賞等を支援する環境整備の推進や、民間事業に対する鑑賞サポート費の助成等を実施。【事業開始年度 令和6年度（2024）】

【3年後の目標】

都立文化施設での環境整備はもとより、助成制度を通じた民間事業でも鑑賞サポートの提供が増加することでノウハウの蓄積や人材育成などが進み、社会全体にアクセシビリティを向上させていく機運と基盤整備が進展している。

【2024年度の実績】

- ・都立文化施設や都の文化事業において、展覧会・公演などの鑑賞を支援するツールの導入や、情報保障付きプログラムを拡充
- ・東京芸術文化鑑賞サポート助成を創設し、2024年度は47団体・62事業を採択
- ・人材育成として芸術文化分野の手話通訳研修プログラムを開始

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
芸術文化へのアクセシビリティ向上	鑑賞サポートの環境整備 東京芸術文化鑑賞サポート 助成の実施 取組や成果の周知・発信 	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

【事業概要】

大会の気運醸成や芸術文化の魅力発信、共生社会の実現に向け、「まつり」や「聴覚障害者にとっての音楽」などをテーマにした3つのアートプロジェクトを2024年度から段階的に展開。【事業開始年度 令和6年度（2024）】

【3年後の目標】

芸術文化へ親しみを持つ人が増加するとともに、障害のあるなしに関わらない芸術文化活動の実施事例が蓄積され、レガシーとしてそのノウハウが引き継がれている。

【2024年度の実績】

- ・2025年の両大会を通じて取り組んでいく方向性や、主な内容などをまとめた「ビジョン2025 アクションブック バージョンアップ」において、誰もが芸術文化に触れることができるよう、アートプロジェクトの展開を実施する旨を記載。
- ・「まつり」をテーマとしたイベント「TOKYO わっしょい」、ろう者と聴者が遭遇する舞台作品「黙るな 動け 呼吸しろ」、「TRAIN TRAIN TRAIN」の各アートプロジェクトについて、実施内容の調整を進めたほか、プレイベントや公開ワークショップによるPRを実施。

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
アートプロジェクト	★ イベントの開催 「TOKYO わっしょい」は9月 その他は11月予定	大会後のレガシー	

プロジェクト 3

キッズ・ユース（Kids and Youth）プロジェクト

3-1 キッズ伝統芸能体験

3-2 子供のための伝統文化・芸能体験事業

3-3 パフォーマンスキッズ・トーキョー

3-4 Shibuya StreetDance Week

3-5 TACTフェスティバル

3-6 Music Program TOKYO（ミュージックワークショップ他）

3-7 Museum Start あいうえの

3-8 ウェルカムユース

3-9 ネクスト・クリエイション・プログラム

3－1 キッズ伝統芸能体験

【事業概要】

伝統芸能のプロの実演家が、本格的な稽古場で子供たちに直接指導を行い、その成果を本物の舞台で発表することにより、伝統芸能の世界が培ってきた礼儀作法や厳しさなどを体験できる学びの場を提供する。本格的な伝統芸能の体験を通じて、伝統芸能に対する興味・関心を高める。【事業開始年度 平成20年度（2008）】

【3年後の目標】

子供向けのプログラムを定期的かつ継続的に実施することにより、子供たちが伝統芸能をはじめ、日本の文化への興味を抱き、ファンとなるなど、次世代へ継承するきっかけとなっている。

【2024年度の実績】

子供たちがプロの実演家から伝統芸能の本格的な稽古を受け、舞台発表を体験するプログラム16コース（能楽・長唄・三曲・日本舞踊）を実施

○スタンダードプログラム（小中高生向け）

⇒それぞれの年齢層にあわせたきめ細かいお稽古を13コース実施

実施期間：2024年9月～2025年3月

実施場所：芸能花伝舎（新宿区）、梅若能楽学院会館（中野区）、たましんRISURUホール（立川市）ほか全8か所

○ユースプログラム（中高生向け）

⇒集中力をもって深い理解を目指す内容の濃いお稽古を3コース実施

実施期間：2024年9月～2025年3月

実施場所：芸能花伝舎（新宿区）、
新宿区立大久保スポーツプラザ（新宿区）

○発表会

開催時期：2025年3月

開催場所：国立能楽堂（渋谷区）、浅草公会堂（台東区）

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
キッズ伝統芸能体験	募集等 → 稽古 → ★ 発表(3月)	事業の評価・検証を反映し運用 →	★ 事業の 評価・検証

3-2 子供のための伝統文化・芸能体験事業

【事業概要】

子供たちに対し、伝統芸能の実演家や職人を講師とする体験・鑑賞プログラムを、身近な学校という場で実施する。体験を通じて、日本文化の価値に対する理解を深め、多様な文化に対する幅広い知識を育む。【事業開始年度 平成27年度（2015）】

【3年後の目標】

子供たちへ伝統芸能における鑑賞・参加機会を提供することにより、子供たちが伝統芸能をはじめ、日本の文化への興味を抱き、ファンになるなど、次世代へ継承するきっかけとなっている。

【2024年度の実績】

都内（区部・多摩・島しょ部）の学校で、子供たちが伝統文化・芸能を体験するプログラムを実施

実施期間：2024年5月～2025年2月

実施場所：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等

ジャンル：16ジャンル

（謡・仕舞、狂言、日本舞踊、歌舞伎音楽、雅楽、箏、三味線、和楽器いろいろ、落語、紙切り、和妻、糸あやつり、八王子車人形、江戸木版画、江戸表具、東京手描友禅）

学校数：60校程度

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
子供のための 伝統文化・芸能 体験事業	実施準備 → 事業実施	事業の評価・検証を反映し運用 → ★ 事業の 評価・検証	

3-3 パフォーマンススキッズ・トーキョー

【事業概要】

ダンスや演劇、音楽などの分野で活動するプロのアーティストを、都内の小中学校・特別支援学校やホール、文化施設、児童養護施設等に派遣し、10日間程度のワークショップを行い、子供たちが主役のオリジナルの舞台作品を作り上げる。最後に発表公演を行い、子供たちの保護者をはじめ地域や教育・文化各方面の多くの人たちにワークショップの成果を発信する。

【事業開始年度 平成20年度（2008）】

【3年後の目標】

子供たちへ良質なダンス、演劇、音楽等の芸術文化に触れられる機会を提供し、アーティストと共に舞台作品を作り上げることによって、子供たちの創造性や自主性、コミュニケーション能力、チャレンジする力、発想力等が育ち、親子で芸能文化の価値に対する理解が深まっている。

【2024年度の実績】

都内（区部・多摩・島しょ部）の学校等で、子供たちがプロの現代アーティストと舞台作品を作るプログラムを実施

実施期間：2024年5月～2025年3月（ワークショップは8～10日間程度）
実施場所：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、
武蔵村山市民会館（武蔵村山市）、野方区民ホール（中野区）、あうるすぽっと（豊島区）、
秋川キララホール（あきる野市）、S&Dたまぐーセンター（青梅市）等
ジャンル：ダンス、演劇、音楽等
プログラム数：30プログラム程度

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
都内学校・ 特別支援学校での ワークショップ	【子供】応募・練習参加 【アーティスト】指導・交流・創造 発表 講評・公演	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証
文化施設での ワークショップ	【子供】応募・練習参加 【アーティスト】指導・交流・創造 発表 講評・公演	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証

3 - 4 Shibuya StreetDance Week

【事業概要】

新しい芸術文化としてのストリートダンスの確立と、ストリートダンサーの聖地である渋谷から世界へ、良質なエンターテインメントを発信し、渋谷をより活力にあふれた街にすることを目的に、国内最大規模のストリートダンスの祭典を代々木公園を中心に開催する。【事業開始年度 平成27年度（2015）】

【3年後の目標】

ユース層によるダンス等の芸術文化を鑑賞・参加する機会が増加するとともに、コンテスト参加やプログラム鑑賞を通じて、仲間と連帯して新しい表現を創作するなど、創造力や発想力の育成に貢献している。

【2024年度の実績】

ストリートダンスのステージプログラム、ワークショップ等を行うフェスティバルを開催

開催時期：2024年11月23日（土・祝）

開催場所：代々木公園（渋谷区）

プログラム：テーマソングに合わせて出演者・来場者が一体となって踊る参加型プログラム、多彩なチームが参加するステージプログラム、チーム型のストリートダンスコンテスト、ダンスのスキル・表現力・オリジナリティを即興で競い合うバトル、あらゆる世代が参加できるダンスワークショップ

来場者数：約2万3千人

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
Shibuya StreetDance Week	開催準備 → ★ 開催（11月） （代々木公園、渋谷エリア）	事業の評価・検証を反映し運用 → ★ 事業の評価・検証	

3 - 5 TACTフェスティバル

【事業概要】

子供の感受性を育み、コミュニケーション能力を向上させることを目的として、海外から一流の舞台芸術家を招聘し、子供だけでなく親子で、そして大人も楽しむことのできる上質の舞台公演やパフォーマンスを東京芸術劇場で上演する。

【事業開始年度 平成22年度（2010）】

【3年後の目標】

参加誘因策と広報に工夫を凝らし池袋での風物詩的な事業として認知を得る。国内外の上質の舞台公演やパフォーマンスを上演することで、大人も楽しめる事業にするとともに、子供や青少年が本格的な舞台芸術に触れる機会を増やす。

【2024年度の実績】

開催期間：2024年5月3日（金）～5月6日（月）

開催場所：東京芸術劇場ほか

来場者数：6,888人

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
TACTフェスティバル	★ 開催（5月・芸劇） 海外広報の強化	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

3－6 Music Program TOKYO（ミュージックワークショップ他）

【事業概要】

子供向けに年齢に応じたミュージックワークショップを実施（Workshop Workshop!）するとともに、教育プログラムでは子供向けオペラ制作のワークショップ（Music Education Program）、小学生、中高生を対象とする舞台芸術事業（Enjoy Concerts!）を実施するなど、子供が芸術文化に主体的に取り組み、成長と共にステップアップする事業を東京文化会館等で展開する。【事業開始年度 平成25年度（2013）】

【3年後の目標】

東京文化会館の休館中も舞台芸術事業、ミュージックワークショップを初めとする各種主催事業（アウトリーチを含む）を継続実施し、子供含め、都民が芸術文化に親しめる機会を継続的に提供する。

【2024年度の実績】

開催期間：通年
開催場所：東京文化会館、東京芸術劇場ほか都内文化施設等

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
Music Program TOKYO	Workshop Workshop! 通年で館内や都内文化施設と連携して実施 Music Education Program 通年で都の教育機関と連携したアウトリーチ 夏休みに他の文化施設と連携したオペラワークショップ Enjoy Concert! シアター・デビュー・プログラム他	事業の評価・検証を反映し運用	★事業の評価・検証

3－7 Museum Start あいうえの

【事業概要】

東京都美術館と東京藝術大学が推進役となって上野公園の日本を代表する9つの文化施設が連携し、こどもたちの「ミュージアム・デビュー」を応援し、すべてのこどもが文化やアートを介して「社会に参加しつながりを持つこと」を推進するプロジェクトであり、文化を介して人々のコミュニケーションの機会を作り、人々の平等性、多様性を肯定し、人々の関わり合いを育み、人々のウェルビーイングを高める。【事業開始年度 平成25年度（2013）】

【3年後の目標】

これまで培ってきた活動を継続させるとともに、日常においてミュージアムを縁遠く感じているファミリーやティーンズにも「参加してみたい」と魅力的に捉えてもらえるような広報戦略を展開する。新規参加者層を開拓することで、より一層プロジェクトを定着させ、ミュージアム・デビューするこどもが増えている。

【2024年度の実績】

東京都美術館等9つの文化施設において各種プログラムを実施。
こどものプログラム参加者数：1,070名（2024年12月末までの実績）

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
Museum Start あいうえの	学校プログラム、ファミリー &ティーンズ・プログラム、 ダイバーシティプログラム、 ミュージアムコミュニティの 形成、教育ツールの制作、9 館連携ポータルサイトの展開 などを実施	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

【事業概要】

若年層を都立文化施設へ無料招待する取組や、若い世代が主体的に参加できるイベント開催することで、若年層が良質な芸術文化に触れる機会を提供する。【事業開始年度 平成31年度（2019）】

【3年後の目標】

公立・私立学校と連携した事業周知や多様な主体と連携した誘因策の検討などを通じて本事業の認知度を向上させ、若者の芸術文化鑑賞割合や都立文化施設への来場数が増加している。

【2024年度の実績】

- Welcome Youth（ウェルカムユース）-2025春-の実施
- [劇場・ホール] 2025年1月3日（金）～同年2月15日（土）の期間に実施する6つの公演に79名招待
- [博物館・美術館] 2025年3月1日（土）～同年4月6日（日）
- ・対象施設：（公演）東京文化会館
（展覧会）東京都庭園美術館、江戸東京たてもの園、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館
 - ・実施内容：①18歳以下を対象に対象施設の公演・展覧会観覧無料
②博物館・美術館を巡るデジタルコンテンツ等
 - ・告知等：特設ウェブサイトの開設、都内高校へのポスター配布、SNS広告等

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
ウェルカムユース （展覧会等の無料観覧） （公演等の無料招待）	春休み期間を中心とした、 展覧会の無料観覧・公演等 の無料招待（18歳以下）	事業の評価・検証を反映し運用	★事業の評価・検証
ウェルカムユース （告知・キャンペーンイベント）	都内学校への周知 SNS広告等	事業の評価・検証を反映し運用	★事業の評価・検証

※歴史文化財団自主事業

3－9
ネクスト・クリエイション・プログラム

【事業概要】
 芸術文化に対する強い関心等を持つ子供たちが、自らの興味関心に応じた分野への理解や経験を一層深めることのできる体験プログラムを提供。【事業開始年度 令和6年度（2024）】

【3年後の目標】
 事業の認知度が向上し、プログラムの魅力が多くの子供や保護者に伝わり、子供たちが自らの興味関心のある様々な分野の芸術文化体験に参加しやすい環境となるとともに、人生の様々な選択肢を増やす契機となっている。

【2024年度の実績】
 以下のプログラムを実施し、計800人以上の子供が参加。

- ・キッズユースオープンキャンパス： 都内の芸術系大学と連携し、小中学生向けオープンキャンパスを実施
- ・こどもファッションプロジェクト： 子供とプロと一緒に作り上げるファッションショーを実施
- ・チームアップ！オペラ： 総合芸術であるオペラ等の体験を多摩地域で実施
- ・中高生のためのクリエイティブCAMP 2024： 中高生がプロのアーティストやクリエイターと協働し、ダンス作品を創作

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
ネクスト・クリエイション・プログラム	・プログラム拡充のうえ実施 ・特設サイトの開設などの広報強化	事業の評価・検証を反映し運用	★事業の評価・検証

戦略 2

人々をインスパイアする

プロジェクト 4

スマート・カルチャー・プロジェクト

4-1 TOKYO スマート・カルチャー・プロジェクト

4-2 シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

4-3 文化振興のDXにおける発信力強化

(再掲) 6-6 芸術文化魅力創出助成

4 - 1 TOKYO スマート・カルチャー・プロジェクト

【事業概要】

都立文化施設における情報通信基盤整備、デジタルコンテンツ化による収蔵品の利活用、デジタルを活用したプログラムの企画開発、最先端技術を活用した新しい鑑賞体験の創出などにより、魅力的なコンテンツを創造・発信するプロジェクト。

【事業開始年度 令和4年度（2022）】

【3年後の目標】

整備された都立文化施設の情報通信基盤やデジタルテクノロジーを活用したオンライン展覧会などの取組によって、芸術文化の新たな楽しみ方やリアル鑑賞の契機として寄与している。Tokyo Museum Collectionにて、収蔵品情報が全面公開されている。収蔵品の3Dデータ、高精細画像およびデジタルリマスターが充実している。

【2024年度実績】

Tokyo Museum Collectionにて収蔵品情報を公開(総公開数約25万点 2024年度末時点)。

MR体験型コンテンツ エクストリーム江戸博「明治銀座の時間旅行」を公開。江戸東京博物館ゲームアプリ第3弾「ハイパー江戸博 日本橋繁昌記 江戸のお金編」を公開（シリーズ累計21万ダウンロード 2025年1月末現在）。

東京文化会館では、自宅で音楽を視覚的に体感できるオンライン無料コンサートをライブ配信。

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
都立文化施設が有する収蔵品等の利活用	収蔵品データの全面公開 3Dデータ及び高精細画像の制作・公開 映像資料等のデジタルリマスター	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の評価・検証	
デジタルを活用した新規プログラムの企画開発／最先端技術を活用した新しい鑑賞体験の創造	アプリ「ハイパー江戸博」の開発・公開 ガイドアプリを応用したコンテンツ開発 音楽鑑賞サポートの開発・公開	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の評価・検証	

【事業概要】

アートとデジタルテクノロジーを通じて、人々の創造性を社会に発揮する（シビック・クリエイティブ）ための活動拠点。「Co-Creative Transformation of Tokyo (CX) ～クリエイティブ×テクノロジーで東京をより良い都市に変える」をミッションに掲げ、様々なプログラムを展開【事業開始年度 令和4年度（2022）】

【3年後の目標】

令和7年度秋より原宿を拠点として活動を展開していく。これまで培ってきたネットワークを活かしながら、地域や周辺企業・団体等の新たなステークホルダーとの関係を構築するとともに、共創し事業を展開していくことで、ステートメントである「Co-Creative Transformation of Tokyo (CX) ～クリエイティブ×テクノロジーで東京をより良い都市に変える」を実現していく。

【2024年度実績】

- ・クリエイティブ×テクノロジーで東京をより良い都市に変える表現・探求・アクションを作り出すアーティスト・フェロー5組を公募（応募総数86件）。ワークショップやミートアップ等も実施。5月には、アート、デザイン、テクノロジーでアーティストと一緒に共創する「CCBT COMPASS 2024」を開催。
- ・「MEET YOUR ART FESTIVAL 2024」「SIW 2024」「渋谷ファッションウィーク2025」などのアートイベントと連携し、CCBT発のクリエイションをまちへ展開。
- ・オーストリアの文化機関「アルスエレクトロニカ」と連携し、リンツ市で開催された世界最大規模のメディアアートの祭典「アルスエレクトロニカ・フェスティバル2024」にR5年度アーティスト・フェローELECTRONICOS FANTASTICOS!の「発電磁行列」を出展。
- ・人や社会をより良い方向に変える、アートの可能性について考えるイベント「ART FOR TRANSFORMATION アートと未来。変容と創造。」を開催。
- ・Upgrade with Tokyo優勝企業とのアートイベントを2023年度から引き続き開催するなど、スタートアップとの官民協働を推進。

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
コアプログラムの推進	アーティスト・フェローの創作活動支援 子供向けワークショップ、未来提案型キャンプ等の実施	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	
多様なパートナーとの連携	原宿への移転を実施 企業・団体や研究機関、まちとの連携	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

【事業概要】

文化振興におけるデジタル推進事業（CCBT、TOKYOスマート・カルチャー・プロジェクト）について、国内外に向け積極的に広報を展開し、都市のプレゼンスを向上【事業開始年度 令和6年度（2024）】

【3年後の目標】

デジタル推進事業について、国内外に向け広報を展開することで、CCBTやスマカルの認知度の向上を図り、来館者数等の増加や共創パートナーの獲得につなげていく。

文化振興におけるDX事業のブランディングを図り、世界を惹き付ける都市東京の魅力発信を強化している。

【2024年度の実績】

- ・文化振興におけるDX事業のブランディングを図り、世界を惹き付ける都市東京の魅力発信を強化するため、ブランディングレポートを作成。
- ・ブランディングレポートの作成に当たり、定性的・定量的にCCBTの活動を振り返り、都市のプレゼンス向上につながる取組等を確認。
- ・オンラインメディアとのタイアップ記事により、デジタル推進事業を広報展開。

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
発信力強化の取組	文化振興におけるデジタル推進事業の成果を取りまとめ広報展開	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

プロジェクト 5

「アートのある生活」プロジェクト

5-1 現代アートの振興事業

5-2 ライフウィズアート事業

5-3 東京アートブックフェア

5 - 1 現代アートの振興事業

【事業概要】

「アートウィーク東京」や民間と共催するアートイベントを通じて多くの人々が現代アートと出会う機会をつくとともに、イベントの機会を捉えて、コレクター志望者向けのセミナーや若年層向けのガイドツアー、トークセッション・シンポジウムなど多彩な教育プログラムを展開することで、アートファンの裾野拡大を図り、東京のアート市場の活性化につなげていく。アーティスト支援策としてもアート市場での活躍を目指すアーティスト向けに作品のコンセプトと発信力の向上を図るプログラムを実施。さらに、芸術文化を気軽に生活の中に取り入れられるよう、絵画作品を貸し出す（アートライブラリー）など新たな仕組みの検討も進める。

【事業開始年度 アートウィーク東京：令和3年度（2021）、Meet Your Art Fes、TAAP：令和5年度（2023）】

【3年後の目標】

「アートウィーク東京」等の現代アートを振興するイベントが東京を代表するアートイベントに成長し、現代アートのファン層や将来の購入層の裾野を広げている。Tokyo Artist Accelerator Programを経た若手アーティストが東京のアートシーンに接続され市場での活躍につながっている。

【2024年度実績】

- アートウィーク東京（2024年11月7日～10日 4日間）
参加人数：約50,000人
 - ・美術館やギャラリーなど約50のアートスポットを巡る周遊バス事業
 - ・大倉集古館での子供若者向け鑑賞ガイドツアー（全6回）
コレクター向けガイドツアー（全3回）
 - ・アートコレクター志望者向けのスタートアップセミナー（全3回）
 - ・国内外からキュレーターを招聘した国際シンポジウムを開催
 - ・現代アートへの理解・学びを深掘りするオンライントークをウェブ配信
 - ・キュレーター向けの国際シンポジウム
- アートを軸に音楽やファッション、エンタメ等周辺分野との連携を通じて多くの人々が現代アートに触れるきっかけとなるイベント「MEET YOUR ART FESTIVAL2024」を民間事業者と共催で実施
- 「Tokyo Artist Accelerator Program」
 - ・アーティストの「語る力」と「コンセプト」の向上を目指す伴走型支援プログラム。（10名のアーティストを支援）
 - ・成果発表としてアーティストが作品コンセプトや制作背景を現代アート関係者等へ向けて語る「TAAP Live（プレゼンテーションステージ）」を初開催

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
アートウィーク東京	実施準備 → ★実施	事業の評価・検証を反映し運用	★事業の 評価・検証
コレクター裾野拡大の 取組（セミナー・子供 向けガイドツアー等）	実施準備 → ★実施	事業の評価・検証を反映し運用	★事業の 評価・検証
キュレーター シンポジウム	実施準備 → ★実施	事業の評価・検証を反映し運用	★事業の 評価・検証
Tokyo Artist Accelerator Program	制作・発信支援 → ★発表の場の提供 広報発信 → 募集審査	広報発信 → 募集審査 制作・発信支援 → ★発表の場の提供	制作・発信支援 → ★発表の場の提供 同様のサイクルにて運用 → ★事業の 評価・検証
民間と共催による アート振興事業	実施準備 → ★実施	事業の評価・検証を反映し運用	★事業の 評価・検証

5-2 ライフウィズアート事業

【事業概要】

〔ライフウィズアート助成〕

アート作品を都民の日常生活の中に根付かせて、アーティストの活動領域を広げる基盤整備を進めることで、芸術文化に携わる人材を増やし、好循環を生み出していく。【事業開始年度 令和3年度（2021）】

〔ライフウィズアート事業〕

「有楽町アートアーバニズム（Y A U）」実行委員会と共同でアートとビジネスのコミュニティ形成や創作環境の整備等に取り組むほか、東京藝術大学とも連携してアートコーディネーター人材の育成に取り組むことで、アートにおけるエコシステムの形成を目指す。【事業開始年度 令和4年度（2022）】

【3年後の目標】

アートとビジネスのコミュニティ形成や支援人材の育成等により、アーティストや担い手の活動基盤が拡大されている。それにより都民が暮らしの中で芸術文化に触れる機会が増えている。

【2024年度実績】

〔ライフウィズアート助成〕

アート作品等を通じた交流機会の創出や作品を所有することによる楽しみ方の提案など、本物のアートに触れる機会を創出する事業を支援

助成上限額 : 2,000万円

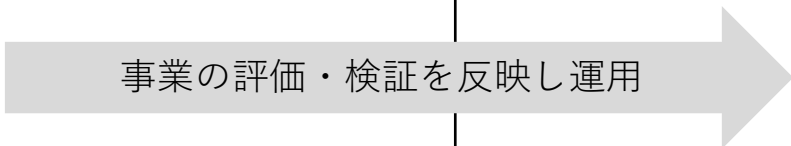
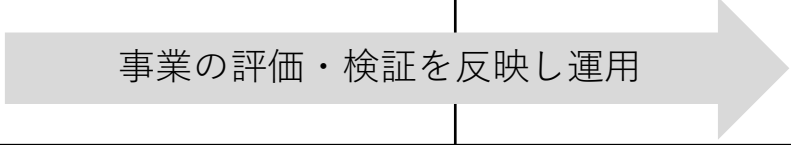
助成率 : 1/2

申請受付 : 2024年5月23日～6月25日

採択件数 : 7件（申請：31件）

〔ライフウィズアート事業〕

アーティストと企業のマッチングに向けた取組等を民間団体と連携して実施

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
ライフウィズアート事業	アートとビジネスのコミュニティ形成 コーディネーター等の育成 等		
			★ 事業の 評価・検証
ライフウィズアート助成	公募・助成		
			★ 事業の 評価・検証

5 - 3 東京アートブックフェア

【事業概要】

アート出版に特化した日本で初めてのアジア最大級の民間主催のブックフェアを東京都現代美術館を会場に開催し、芸術文化の新たな楽しみ方を創出するとともに、若手作家の支援や海外への発信にもつなげる。【事業開始年度 令和4年度(2022)】

【3年後の目標】

集客力のあるアートブックフェアを活用することで、新たな切り口で芸術文化に触れる都民が増えている。

【2024年度実績】

会期：2024年11月28日～12月1日(4日間)

会場：東京都現代美術館

備考：アートブックフェアにおいて作家によるトークイベント等を実施

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
アートブックフェアの開催	アートブックフェアの準備・実施	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の評価・検証
作家支援	若手作家を中心としたトークイベント実施	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の評価・検証
交流プログラム	海外招聘、関連プログラムの実施 海外ABFへの派遣	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の評価・検証

プロジェクト 6

アート & エンターテインメントプロジェクト

6-1 TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL（サラダ音楽祭）

6-2 舞台芸術にかかるイベントの拡充・再編（東京芸術祭）

6-3 神楽坂まち舞台・大江戸めぐり

6-4 六本木アートナイト

6-5 恵比寿映像祭

6-6 芸術文化魅力創出助成

6-7 総合的な国際芸術祭

（再掲）1-2 伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル～

（再掲）2-5 世界陸上・デフリンピックに向けたアートプロジェクト

6 – 1 TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL（サラダ音楽祭）

【事業概要】
 Sing and Listen and Dance～歌う！聴く！踊る！をコンセプトに東京都交響楽団（都響）と東京芸術劇場（芸劇）を中心とした実行委員会の下、民間企業等と連携して誰もが楽しめる音楽祭を開催。ファミリー・子供向け音楽企画や、障害のある方も一緒に鑑賞できるコンサートに、都響の楽員と子供たちの合同演奏や演奏指導等を実施し、多様性と調和（社会的包摂）の推進・次世代育成を目指すオリンピックレガシー事業として展開する。また、地域コミュニティ等と連携し、多摩や島しょでも地域差なく音楽に触れられる機会を提供する。**【事業開始年度 平成30年度（2018）】**
 主催：サラダ音楽祭実行委員会（東京都、公益財団法人東京都交響楽団、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、豊島区、三菱地所株式会社）

【3年後の目標】
 コン서트等の企画を通じて、社会的包摂の推進、地域で音楽を気軽に触れる機会の提供を進めるとともに、東京都交響楽団（都響）の音楽教育への知見や、都響の楽員を活用する教育プログラムを音楽祭の中心事業のひとつに据え、体験・鑑賞・教育を包括した特色ある音楽祭として定着し、さらに多くの都民が参加できる音楽祭として発展している。

【2024年度実績】
 [メインプログラム] 2024年9月14日(土)、15日(日)
 会場：東京芸術劇場／池袋エリア
 メインコンサート、OK！オーケストラ、子供向けオペラ等 ※このほか、PRコンサートや各種ワークショップ等を実施
 [スペシャルプログラム]
 ・SaLaDスプリングコンサート 2024年5月3日(金・祝) 会場：日比谷公園大音楽堂
 ・SaLaDプレミアムコンサート 2024年9月26日(木)27日(金)、10月16日(水)17日(木)、11月28日(木)29日(金)
 会場：小平、昭島、羽村、狛江、多摩、武蔵野 ※このほか、多摩島しょ地域で小規模公演を3回実施
 ・OK！オーケストラ in 多摩 2024年8月4日(日)、10月27日(日)、2月22日(土)
 会場：東大和、武蔵村山、町田
 [教育プログラム]
 都響の楽員から直接指導を受け、成果発表会としてメインプログラム当日に楽員と共に弦楽アンサンブルを披露する「都響メンバーとLet's弦楽アンサンブル」を実施

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
コンサート、ワークショップ等の企画・実施	開催準備 → ★ サラダ音楽祭開催	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の評価・検証

6-2 舞台芸術にかかるイベントの拡充・再編（東京芸術祭）

【事業概要】

池袋周辺地域を中心に、多くの都民に親しみやすい作品から個性豊かな作品まで、国内外の多様な舞台芸術作品を上演するとともに、舞台芸術に関わる国際的な人材育成事業なども行う総合的な国際舞台芸術祭を実施する。

【事業開始年度 平成28年度（2016）】

主催：東京芸術祭実行委員会〔公益財団法人東京都歴史文化財団、東京都〕

【3年後の目標】

エンターテインメント要素を取り入れた新たなフェスティバルへの再編も含めて検討を進め、より多くの人に開かれた舞台芸術祭として成長し、国内外から多くの人々を呼び込み、東京から舞台芸術界をリードする人材を輩出している。

【2024年度実績】

「東京芸術祭 2024」は、多くの人々が劇場を訪れ、対話し、考えを交換することで多様な価値観が生まれていくという、舞台芸術ならではの魅力に改めて注目し、『トランジット・ナウ～寄り道しよう、舞台の世界へ～』をテーマに据え、舞台芸術の祭典に誰もが気軽に参加できるための場を創出した。

会期：2024年9月15日（日）～29日（日）

会場：東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE〈池袋西口公園野外劇場〉

来場・参加者数：38,994人 視聴回数：17,647リーチ

演劇、音楽劇、野外パフォーマンス、人材育成など9プログラムと、レクチャー、シンポジウム、インバウンドツアーの実施、広報強化のため2つのインフォメーションセンターの運営、全プログラムの多言語化や情報保障を行った。

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
国際的な舞台芸術祭	開催準備 → ★ 舞台芸術祭開催 （10～11月） フェスティバル感のあふれる 事業に再構築して実施	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証

6－3 神楽坂まち舞台・大江戸めぐり

【事業概要】

神楽坂エリア一帯を地域の文化資源として活用し、伝統芸能に馴染みのない初心者や若年層、外国人（観光客、在住者）にも気軽に参加できる構成と内容で、日本の伝統芸能や文化に親しむ端緒となることを目的とした伝統芸能のフェスティバルを実施する。【事業開始年度 平成25年度（2013）】

主催：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）／NPO法人粋なまちづくり倶楽部

助成・協力：東京都

【3年後の目標】

伝統芸能公演の鑑賞・参加を通じて、日本文化に対する理解や幅広い知識を深めることに貢献するとともに、若手実演家等の活躍の機会を提供することなどにより担い手の育成を図り、次世代へ継承するきっかけとなっている。

また、インバウンドを含む多くの人々が来訪することに貢献している。

【2024年度実績】

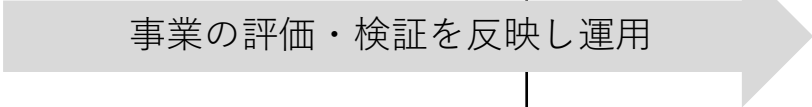
神楽坂のまちなかで、伝統文化・芸能に親しめるフェスティバルを開催

開催時期：2024年5月18日（土）、19日（日）

開催場所：神楽坂エリア（毘沙門天善國寺、赤城神社、矢来能楽堂、白銀公園、石畳の路地や路上、歴史的な所旧跡ほか）

プログラム：神楽坂芸者衆の「お座敷遊び体験」、語り芸（講談、浪曲等）、演奏（三味線・箏・尺八等）、舞台（能・日本舞踊等）、伝統芸能に対する疑問や魅力を深く掘り下げるトーク等

来場者数：約3万4千人

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
神楽坂まち舞台・ 大江戸めぐり	開催準備・開催(春ごろ)  ★	 事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証

6 - 4 六本木アートナイト

【事業概要】

六本木のまちを舞台に、アート作品のみならず、デザイン、音楽、映像、パフォーマンスなどを含む多様な作品を点在させ、非日常的な体験を創出する。アートとまちが一体化することにより、六本木の文化的なイメージを向上させ、大都市におけるまちづくりの先駆的なモデルを創出する。【事業開始年度 平成20年度（2008）】
主催：東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、港区、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合】

【3年後の目標】

若手アーティスト等に参加機会を提供することにより、飛躍につながる創造、発信の場となっている。
他のアートイベントとの連携など新たな展開も視野にいれながら、国際発信力のある刺激的なプログラムによって東京の魅力を世界に発信し、インバウンドを含む多くの人々が地域へ来訪することに貢献している。

【2024年度実績】

六本木の街なかで、アート作品、パフォーマンス等を楽しめるフェスティバルを開催

- 開催時期：2024年9月27日（金）～29日（日）
開催場所：六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街等
プログラム：RAN Picks（六本木アートナイトが注目するアーティストを複数選出）、RAN Focus（特定の国や地域のアートに注目したプログラム。今回は台湾。）等、約30組のアーティストによる約40のプログラム
鑑賞者数：約68万人

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
六本木アートナイト	開催準備・開催（秋） 六本木地域のブランディング	事業の評価・検証を反映し運用	
			★ 事業の 評価・検証

6-5 恵比寿映像祭

【事業概要】

東京都写真美術館を中心に、映像分野における創造活動の活性化と、映像表現ジャンルを横断した芸術性の高い作品を紹介することを目的とした映像とアートのフェスティバルを開催する。【事業開始年度 平成20年度（2008）】
主催：東京都、東京都写真美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）、日本経済新聞社

【3年後の目標】

国際発信および都民への文化還元の強化を主眼とした持続可能な事業へ、バージョンアップした施策・構成のエコシステムを構築する。映像祭における制作委嘱事業により、作家の海外発信を強化するとともに、創作活動の支援を行う。近隣地域文化施設等との共催事業による地域の活性化を促進することで、映像祭として一層成長している。

【2024年度実績】

会期：2025年1月31日～2月16日
※コミッション・プロジェクト（3F展示室）のみ3月23日まで

会場：東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス各所、地域連携各所ほか

参加者数：99,575名

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
恵比寿映像祭	開催準備 → 開催（2月）	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

【事業概要】

世界に誇る芸術文化都市の実現を目指し、様々なジャンルのフェスティバルやアートプロジェクト等の創造活動、東京の魅力として発信力・持続力のあるプロジェクト等を支援【事業開始年度 令和4年度（2022）】

【3年後の目標】

助成を通じて民間主催のフェスティバルと連携し、都主催の文化事業とあわせて、芸術文化が溢れ芸術文化による新たな賑わいが一層創出されている。

【2024年度実績】

助成上限額：2,000万円

※デジタル開発サポート、創作環境サポートに係る費用を別途支援

助成率：1/2

申請受付：第1期 2024年3月28日～5月15日
第2期 2024年8月19日～9月24日

採択(申請)：第1期 33件（141件）、第2期 23件（115件）

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
芸術文化魅力創出助成	多くの団体・アーティストや参加者が共に作り上げる様々なジャンルのフェスティバルやアートプロジェクト等の創造活動、東京の魅力として発信力・持続力のある革新的なプロジェクト等を助成により支援	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

【事業概要】

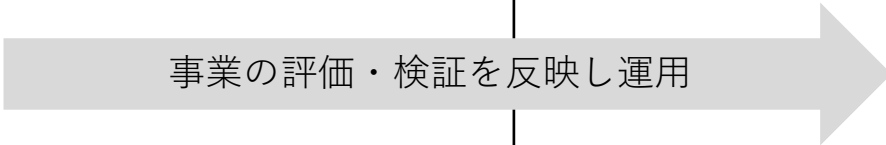
点在する個々の芸術文化イベントを面で捉え、国内外へ一体的に発信するプロモーションを展開

【3年後の目標】

既存コンテンツの磨き上げや魅力的な新しい企画を創出し、国内外への一体的なプロモーションを実施することで、芸術文化が多く都民に親しまれ、「東京の秋はアートが楽しめる」という認識が浸透し始めている。

【2024年度の実績】

準備事業として、事業実施に伴う定量的な効果を把握するために経済波及効果調査委託等を実施。また本事業を共同で実施する準備委員会との共催協定を締結し、WEBサイトの企画要件定義など、来年度に向けた準備を行った。

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
一体的プロモーションの実施	・特設サイトの開設 ・一体的なプロモーションの展開		

戦略 3

ハブ機能を強化する

プロジェクト 7

アート・ハブ（Art Hub）プロジェクト

7-1 TOKYOアート・ハブの検討

7-2 東京芸術文化相談サポートセンター「アートノト」

(再掲) 4-2 シビック・クリエイティブ・ベース東京

【事業概要】

東京に集積しているアーティストやプロデューサー、ディレクター、キュレーター、演出家、芸術文化団体、アーティスト・イン・レジデンス等の多様な文化資源を結び付け、世界につなぐハブ拠点を形成し都市の成長につなげていく。その中核として、都民にとっては、最先端の芸術文化が体感でき、誰もが楽しめる場、多様なイベントで都民が直接アーティストと交流できる場、アーティスト等にとっては、東京のアーティストのショーケースや海外発信、最新テクノロジーでイノベーションを創造する場である「TOKYOアート・ハブ」を構築する。

【3年後の目標】

有識者とともに東京アートハブ構想を取りまとめ、その結果に基づき東京の多様な文化資源を結びつけ世界に発信するハブ機能「TOKYOアート・ハブ」の具体的な検討が進んでいる。

また、アーティストへの支援や、ビジネスなどの異分野との連携など、将来導入する機能へとつながる事業が実施されている。

【2024年度実績】

新たな創造を生み出し、東京のアートやアーティストを世界に発信するハブ機能の構築に向け、有識者等の意見を聴取。人材育成やネットワーキングの形成等将来ハブに導入する機能へとつながる事業を実施。

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
TOKYOアート・ハブの検討	検討		

【事業概要】

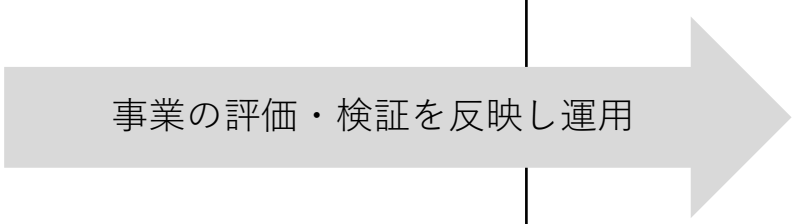
東京都内で活動するアーティストやあらゆる芸術文化の担い手の持続的な活動を支援し、新たな活動につなげるプラットフォームを運営。オンラインを中心に、弁護士や税理士といった専門家等と連携しながら、悩みや困りごとに対応する「相談窓口」、活動に役立つ情報を届ける「情報提供」、活動に必要な知識やスキルを提供する「スクール」の3つの機能で総合的にサポート。【事業開始年度 令和5年度(2023)】

【3年後の目標】

相談窓口、情報提供及びスクールの各機能の充実を図ることで、アーティストや芸術文化の担い手の持続的な活動の更なる後押しをしている。

【2024年度実績】

- ・相談窓口：オンラインを活用し、ジャンルや経験を問わず、多くのアーティスト等からの相談に対応。アートイベントでの出張相談を実施
- ・情報提供：公式ウェブサイト、YouTube、note、LINEなど、複数のメディアプラットフォームを活用して情報を一元的に発信
- ・スクール：創造の現場で必要不可欠な知識から時事的なトピックについての解説まで、9つのテーマで計39講座実施

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
相談窓口	・相談窓口、情報提供、スクールの3つの機能を備えた東京芸術文化相談サポートセンター「アートノト」を運営 ・アートイベントでの出張相談や芸術系大学への出張講座などアウトリーチ活動を展開		
情報提供		 事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	
スクール			

プロジェクト 8

海外発信プロジェクト

- 8-1 Instagramを活用した戦略的海外広報
- 8-2 海外都市とのネットワーク形成
- 8-3 海外の劇場とのネットワーク形成
- 8-4 海外の博物館とのネットワーク形成
- 8-5 海外の美術館等諸機関とのネットワーク形成
- 8-6 THE TOKYO PASS
- 8-7 アートマネジメント人材等海外派遣
- (再掲) 6-7 総合的な国際芸術祭
- (再掲) 4-3 文化振興のDXにおける発信力強化

8 - 1 Instagramを活用した戦略的海外広報

【事業概要】

Instagramアカウント（Tokyo Arts & Culture）を用いて、動画コンテンツやライブ配信等を行い、東京の都市の魅力や文化芸術に関する情報を世界中の人々に対して発信することで、都の文化事業への関心を高める。
フォロワー数は約18.5万人(2025年1月末現在)【事業開始年度 平成30年度（2018）】

【3年後の目標】

東京で展開される多彩な芸術文化や引き継がれてきた伝統・風景など都市の魅力を発信することで国内外からフォロワーを獲得し、海外の文化芸術系アカウントに肩を並べる質と影響力をもつアカウントに成長している。（目標フォロワー数22万）

【2024年度の実績】

- ・ 土日・年末年始を除いて約月10回、都内文化施設の催しや文化イベント、パブリックアートなどのアートシーンを投稿。リールズ（ショート動画）投稿を4割程度に増やし、エンゲージメント数（ページ閲覧数・いいね数）が増加
- ・ 東京都写真美術館にてMEETUPキャンペーンを実施（2024年12月2日）。施設・展覧会ツアーに参加したアカウントのフォロワー(11名)の投稿を通じて、東京の芸術文化の魅力を発信
【イベント投稿総閲覧数】 508,509

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
Instagramを活用した戦略的海外広報	・ インスタ投稿 ・ キャンペーンの実施	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の評価・検証	

8-2 海外都市とのネットワーク形成

【事業概要】

ロンドン市長の提唱により2012年から発足した世界都市文化会議（World Cities Culture Forum, WCCF）に参加し、各都市の行政実務者間で芸術文化への取組や課題等について共有・議論・情報交換を実施。年次サミット参加等を通じて海外都市とのネットワークを強化し、海外都市の好事例を踏まえた取組の検討を行うとともに、都の文化政策を海外発信・展開に結び付けていく。

【3年後の目標】

WCCF参加都市等との交流を活性化し文化施策や文化資源の情報交換等を進めることで都施策の一層の充実が図られている。

【2024年度の実績】

- ・アジア・太平洋地域都市オンラインミーティング（8都市）に参加、都の政策を発信（2024年5月）
- ・世界都市文化サミット2024（ドバイサミット）に出席し、ナイトタイムエコノミーについてのグループワークに参加、さらに社会的弱者に対する包括的なアクセシビリティの向上を目指す「文化を通じた共生社会の実現」について等、海外都市に向けた政策発信及びネットワーク構築を実施（2024年10月28日～11月2日）
- ・3年に一度発行されるWCCR（World Cities Culture Report）作成に参画
- ・ドバイサミットで構築したネットワークにより、アムステルダム市副市長が訪都（2025年2月）

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
WCCFへの参加	実施準備 → ★サミット参加 海外都市との共同プログラム等の検討・実施	実施準備 → ★サミット参加	実施準備 → サミット参加★ ★事業の 評価・検証

8－3 海外の劇場等とのネットワーク形成

【事業概要】

海外の劇場やフェスティバル等との間で提携協定を締結するなどネットワークを形成し、共同制作や両都市での公演等の事業につなげる。

【3年後の目標】

東京文化会館では改修工事期間中も継続して海外劇場との文化交流事業を継続的に実施し、アジアにおける文化発信拠点としての地位の確立を目指すとともに、東京芸術劇場においても、若手クリエイターが国内で制作したクリエイションを海外で発表することを目指し、引き続きネットワーキングを強化することで、海外との共同制作や公演等の事業が活発に展開されている。

【2024年度の実績】

〔東京文化会館〕

野平一郎プロデュース「フェスティヴァル・ランタンポレル～時代を超える音楽～」を立ち上げ、ニーム音楽祭Les Volques（フランス）との連携企画によるプログラミングや招聘したヴィオラ奏者の芸術監督を交えたコンサートの開催、共演やマスタークラスによる若手の育成、IRCAM（フランス国立音響音楽研究所）との連携企画によるシネマコンサート等を実施。

IRCAMとは若手クリエイター育成事業の連携も決定し、次年度以降に向けた関係を構築した。

〔東京芸術劇場〕 フィルハーモニー・ド・パリとの連携事業として、公開講座を実施した。

日程：2025年3月4日(火)

会場：東京日仏学院エスパス・イマージュ

来場者数：約120名（リモート参加含む）

年度		2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
海外の劇場とのネットワーク形成	東京文化会館	フェスティヴァル第2弾の実施と連携機関の開拓と関係構築。	フェスティヴァル第3弾の実施と連携機関の開拓と関係構築。	フェスティヴァル第4弾の実施と連携機関の開拓と関係構築。
	東京芸術劇場	パリ管弦楽団来日時に団員によるエデュケーションプログラムを実施する	今後の海外展開をリサーチするとともに、国内公演に海外の劇場プロデューサー等を招聘することを目指す。	これまでの取組を継続し、ネットワーキングの強化・深化を図る。

8－4 海外の博物館とのネットワーク形成

【事業概要】

江戸東京博物館がこれまでに築き上げた海外の博物館等との信頼関係を基に実施するシンポジウムや国際交流展を通じて、海外の研究者や機関と積極的に交流を行うとともに、異なる文化背景を持つ市民同士の相互理解と友好を促進する。

【3年後の目標】

2002年から日中韓博物館国際シンポジウムを始めとする様々な交流を行ってきたソウル歴史博物館において、江戸東京博物館の収蔵資料を用いた国際交流展を準備し、開催する。展覧会の開催を通して、日本の歴史や文化への興味を喚起し、相互理解と友好関係を促進する。

【2024年度の実績】

- ・ ICOM CAMOC年次大会
2024年10月9日（水）～11日（金） アムステルダム博物館
- ・ 日中韓博物館国際シンポジウム
2024年9月21日（土）～22日（日） 北京首都博物館
- ・ 国際交流展「東京－近代版画に見る都市の創成1920-30年代 江戸東京博物館コレクションより」
2024年11月6日（水）～2025年2月1日（土） パリ日本文化会館
来館者数：17,901人

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
日中韓3か国4館国際シンポジウムへの参加ならびに発表	ソウル歴史博物館（韓国）	東京都江戸東京博物館	瀋陽故宮博物院（中国）
国際交流展の実施	企画・立案	調査・研究	作品選定・準備・実施（予定）
ICOMの主要分科会であるCAMOC（都市博物館のコレクション・活動国際委員会）年次大会への参加ならびに発表	ICOMトバイ大会	未定	未定

8－5 海外の美術館等諸機関とのネットワーク形成

【事業概要】

東京都現代美術館にて海外美術館等諸機関とのネットワークを形成し、キュレーター同士の交流を通じて、海外 諸機関との共同事業につなげる。

【3年後の目標】

東京都現代美術館が海外美術館等諸機関との共同事業の実施等により、日本のアーティストを海外に紹介するとともに東京都現代美術館の海外での発信力を高めている。

【2024年度の実績】

- ・ハン・ネフケンス財団（30ヶ国・現代美術助成団体）とR7新規事業【MOT Plus】との協業に関わる事業スキームの確認
- ・サプライド財団（香港、LGBTQ文化振興団体）が所有するコレクションを活用した大規模企画展の実施準備
- ・令和6年度文化庁「日本文化のグローバル展開に資する《新たな価値》の発信に係る準備事業」事務局と協力し、中国、タイ他アジア圏の作家、キュレーター25名との交流及び視察対応
- ・アジア圏若手キュレーターによる国際シンポジウムの実施
- ・アメリカ、サンタモニカのアーツセンターと連携し、キュレーターレジデンスプログラムに参加（1名）、現代美術に関する調査及びネットワーク構築
- ・国際文化交流基金による現代美術キュレーター（米州／8名、欧州7名）の視察・交流
- ・アートウィーク東京のVIPバスツアー80名のキュレーターのうち18名の視察・交流
- ・その他：大使館文化部からの展覧会交換のオファー、海外現代美術諸機関との情報交換・作品調査等の来館件数、ネットワーク構築など多数

	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
海外の美術館等諸機関とのネットワーク形成	ハン・ネフケンス財団との協働企画実施 国際シンポジウムの開催	コレクション展、企画展等の海外巡回提携、人材受け入れ等の調整	国際巡回展の実施、海外芸術団体との協働

8 - 6 THE TOKYO PASS

【事業概要】

訪日外国人の東京での文化観光体験の拡充を目指した、都内の国公立・私立の博物館・美術館・庭園・動物園・水族園・植物園等の文化施設（53施設：2025年3月末現在）へ入場できる周遊パス。【事業開始年度 令和4年度（2022）】

企画・運営：THE TOKYO PASS -Culture プロジェクト（構成企業・団体：株式会社丹青社、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人東京観光財団、株式会社JTB）

運営事務局：株式会社丹青社

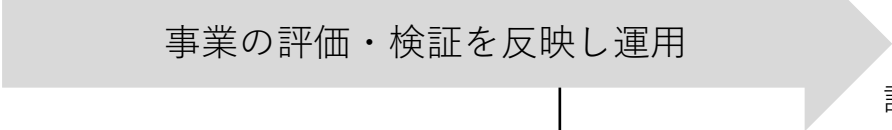
協力：東京都

【3年後の目標】

THE TOKYO PASSの提供価値が高まるとともに、本事業の取組を契機として、東京を訪れる外国人観光客が芸術文化を鑑賞する機会が増加している。

【2024年度の実績】

参加施設数：2022年度39施設➡53施設へ増

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
参加施設	・新規参加施設の拡充		
海外向け販売促進	・外国人観光客向けの販売促進 ・海外向け広報の実施		
アプリ調整 独自イベント	・外国人向けユーザビリティの向上		★ 事業の 評価・検証

8－7　アートマネジメント人材等海外派遣

【事業概要】

演出家やキュレーターなどの若手のアートマネジメント人材を海外のフェスティバル等に短期派遣し、海外の先駆的な作品や創作現場に直に触れるとともに、海外専門家とのネットワークを作る機会を提供。国際的な視点に立った創作の機運醸成や、東京と各派遣先との連携の深化、東京と海外セクターとのネットワーク構築・強化に繋げる。

【事業開始年度　令和5年度（2023）】

【3年後の目標】

国際的に活躍するプロフェッショナル人材を目指す若手にとって、海外の専門人材との緊密なネットワーク構築に資する有意な事業として認知され、東京の芸術文化の魅力を世界へ発信する契機となっている。

【2024年度の実績】

- 第1回　派遣人数：3名（応募者数：19名）　時期：2024年4月中旬
派遣先：ヴェネツィア・ビエンナーレ、ローマ
- 第2回　派遣人数：3名（応募者数：5名）　時期：2024年11月上旬
派遣先：インドネシア・ダンス・フェスティバル、ドラマリーディング・フェスティバル
- 第3回　派遣人数：4名（応募者数：14名）　時期：2024年11月中旬
派遣先：CINARS（モントリオール）

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
アートマネジメント人材海外派遣	実施準備 報告会 公募・海外派遣(15名)の実施	事業の評価・検証を反映し運用	★事業の評価・検証

戦略 4

持続性のある芸術文化エコシステムを構築する

プロジェクト 9

アーティスト・ステップアップ・プロジェクト

9-1 Tokyo Contemporary Art Award (TCAA)

9-2 TOKAS本郷「Emerging」 「Open Site」

9-3 TOKASレジデンス

9-4 スタートアップ助成

9-5 東京芸術文化創造発信助成

9-6 東京音楽コンクール

9-7 若手音楽家支援事業

9 - 1 Tokyo Contemporary Art Award (TCAA)

【事業概要】

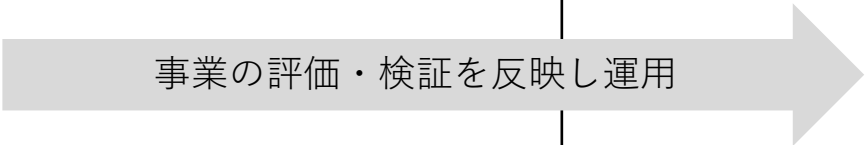
国内で実績があり、更なる飛躍とポテンシャルが期待できる中堅アーティストに賞を授与し、次なるステージにキャリアを発展させ世界で広く活躍できるよう最適な時期に支援を行う。【事業開始年度 平成30年度（2018）】

【3年後の目標】

海外展覧会への出展など、TCAA受賞者の国際的な活躍を通じて、東京のアーティストの評価が高まり、底上げが図られている。

【2024年度の実績】

2023年度に決定した第5回TCAA受賞者2名による、来年度実施予定の東京都現代美術館での展覧会や今後の制作活動に資するリサーチ等などの海外活動支援を行う。

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
賞の魅力のPRや広報	賞の特徴および魅力の発信、賞の実績、受賞アーティストの活動実績の発信		
Tokyo Contemporary Art Award	選考・授賞、受賞記念展の開催	海外活動支援・海外発信支援 モノグラフ（日英）の作成・公開	選考・授賞、受賞記念展の開催

★
事業の
評価・検証

9 - 2 TOKAS本郷「Emerging」「Open Site」

【事業概要】

TOKASにおいて、日本国内を拠点とする35歳以下のアーティストを対象に公募を行い、個展開催の機会を提供を提供する「Emerging」や、時代性に即した視点でこれまでにない表現を探究し、社会と向き合う創造的な企画を募集する公募プログラム「OPEN SITE」のサポートを強化することで、若手から中堅のアーティストのステップアップのための支援を充実させる。

【事業開始年度 平成13年度（2001）（TOKAS Emerging）、平成28年度（2016）（OPEN Site）】

【3年後の目標】

展覧会の設営、作品の輸送などのサポートにより展覧会を充実させるとともに、自らを紹介するための小冊子を二か国語で作成しPRすることにより、更なる活躍の機会を得ている。

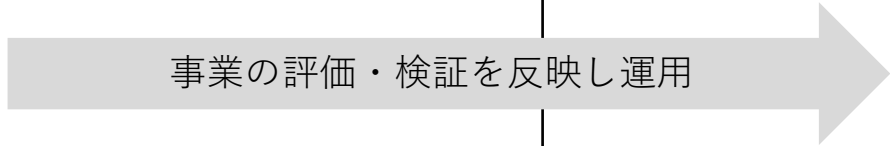
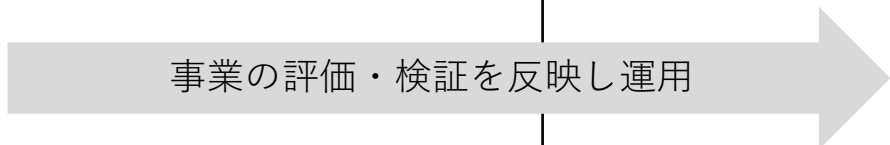
【2024年度の実績】

[Emerging]

142組の応募から選出されたさまざまな表現に取り組む新進アーティスト6名の個展を開催。制作や展覧会カタログの制作等を行う。

[OPEN SITE]

279企画から選出された展示部門4企画、パフォーマンス部門2企画、dot部門1部門を実施。さらにTOKAS推奨プログラムを実施。制作支援のほか、記録冊子の制作（展示部門）等を行う。

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
Emerging支援	Emergingの公募、前年度公募によるプログラムの実施（展示設営、輸送支援、小冊子作成等）		
			★ 事業の 評価・検証
OPEN SITEの活用	OPEN SITEの公募、前年度公募によるプログラムの実施（展示設営、輸送支援、カタログ助成等）		
			★ 事業の 評価・検証

【事業概要】

TOKASレジデンシーや提携する派遣先での一定期間の滞在を通じて若手アーティスト・キュレーターの制作やリサーチ機会を生み、滞在中はオープン・スタジオ等のパブリック・プログラムを通じて、活動発表の場も提供する。また、実績のあるアーティストやキュレーターとのネットワーキングや、メンタリング等を実施することで、アーティストの成長につなげる。

【事業開始年度 平成18年度（2006）】

【3年後の目標】

従来のプログラムに、海外キュレーター招聘や国内のアーティストの創作環境向上、活躍の機会を増やすためのプログラムを加え、若手アーティストの国内外での活躍に繋げている。

【2024年度の実績】

〔レジデンスプログラム〕

- （1）海外クリエイター招聘プログラム：6名を海外より招聘
- （2）二都市間交流事業：9名を海外へ派遣し、8名を海外より招聘
- （3）リサーチ・レジデンス・プログラム：4名を海外より招聘
- （4）国内クリエイター制作交流プログラム：2名がレジデンスに滞在
- （5）芸術文化・国際機関推薦プログラム：滞在実績なし

〔キュレーターインレジデンス〕

キュレーター招聘プログラム：6名を海外より招聘

〔国内レジデンス〕

国内クリエイター制作交流プログラム：2名がレジデンスに滞在

国内若手クリエイター滞在プログラム：2名がレジデンスに滞在

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
TOKASレジデンシー	レジデンスプログラム	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証
キュレーター インレジデンス	キュレーター招聘プログラムの公募、 前年度の公募プログラムの実施	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証
国内レジデンス	国内若手クリエイター滞在プログラムの公募、 前年度の公募プログラムの実施	事業の評価・検証を反映し運用	★ 事業の 評価・検証

9 - 4
スタートアップ助成

【事業概要】
 東京を拠点とし東京の芸術シーンの次代を担うことが期待される個人（新進の芸術家等）又は新進の団体（芸術団体、実行委員会等）が実施する芸術活動に対し助成する。【事業開始年度 令和3年度（2021）】

【3年後の目標】
 東京の芸術シーンでの活動に意欲がある新進の芸術家や芸術団体がチャレンジする新たな芸術創造活動を支援し、今後の芸術活動へのステップアップに寄与している。

【2024年度の実績】
 助成上限額：個人30万円、団体100万円
 助成率：10/10
 申請受付：【第1回】2024年5月2日～5月23日
 【第2回】2024年9月5日～9月26日
 【第3回】2025年1月6日～1月23日
 採択(申請)件数：【第1回】55(287)件【第2回】47(197)件【第3回】未発表

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
スタートアップ 助成	新進の芸術家や芸術団体等が チャレンジする新たな芸術創造活動を助成により支援	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

【事業概要】
 主に若手・中堅の芸術家や芸術団体等をターゲットに、活動の目的や助成期間に応じた4つのカテゴリー（令和7年度に海外映画祭参加活動のカテゴリーⅣを新設）により公募を行い、東京の都市魅力の向上に寄与する多様な芸術の創造活動及び国内外への発信活動とその担い手を支援する。 **【事業開始年度 平成24年度（2012）】**

【3年後の目標】
 海外映画祭参加活動に対する支援カテゴリーを新設するなど制度の見直しも図りながら、様々な活動分野や複数年を対象とする助成など重層的な支援を通じて、多様な創造活動の担い手を後押ししている。

- 【2024年度の実績】**
- (1) カテゴリーⅠ 単年助成
 - ①都内での芸術創造活動
 （団体：200万円個人：50万円かつ、助成対象経費の1/2以内） 採択件数：100件（申請件数：520件）
 - ②国際的な芸術交流活動
 （団体：400万円個人：50万円かつ、助成対象経費の1/2以内） 採択件数：25件（申請件数：85件）
 - (2) カテゴリーⅡ 長期助成
 【2年間】800万円【3年間】1,200万円 かつ、助成対象経費の1/2以内 採択件数：8件（申請件数：87件）
 - (3) カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業
 （単年:100万円、長期2年400万円、3年600万円、かつ助成対象経費の2/3以内）
 - ①単年助成 採択件数：7件（申請件数：34件）
 - ②長期助成 採択件数：6件（申請件数：18件）
 ・別途創作環境サポート費（上限10万円）助成率10/10

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
東京芸術文化創造発信助成	東京の芸術文化の魅力を向上させ、世界に発信する創造活動や、発表だけでなく、作品制作のプロセスを含めた活動を助成により支援	事業の評価・検証を反映し運用 ★事業の評価・検証	

9－6 東京音楽コンクール

【事業概要】

芸術家としての自立を目指す可能性に富んだ新人音楽家を発掘し、育成・支援を行うことを目的として東京文化会館で音楽コンクールを実施する。

【3年後の目標】

海外との連携により、東京発の世界的アーティストの輩出を目指し、東京音楽コンクール入賞者の海外での研鑽・活躍の場を創出する。

【2024年度の実績】

第22回東京音楽コンクールを開催（応募総数426名）し、優勝者3名によるコンサートを開催した。

海外からの応募も増加し、〆切日前に募集人数の上限に達している。

入賞者を東京文化会館チェンバーオーケストラや舞台芸術作品、各種コンサートやマスタークラス等に参加させ、国内外での研鑽と活躍機会を増加させた。

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
コンクールの運営	第23回東京音楽コンクールの実施 課題曲・審査体制等の検証 研鑽・活躍の場の創出（成果発表）	事業の評価・検証を反映し運用	

9 - 7 若手音楽家支援事業

【事業概要】

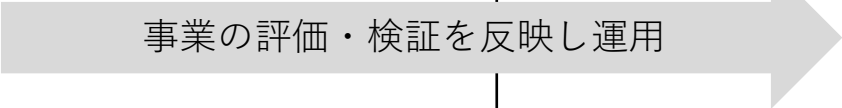
東京芸術劇場が実施している芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド（GOA）の卒団生を中心に、イベント等での発表の機会を提供し、本格的なプロフェッショナルになる前の足がかりとなるような経験を積んでもらうことで若手音楽家のステップアップを支援 【事業開始年度 令和7年度（2025）】

【3年後の目標】

若手音楽家のステップアップを支援することにより、質の高い音楽家の輩出に繋がる好循環を生み出す。また、地域やまちなかでアーティストによる音楽を気軽に鑑賞できる場を広げ、東京の文化的環境を楽しんでいる人の増加に寄与する。

【2024年度の実績】

2025年度新規事業

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
若手音楽家支援	イベント等での発表の機会を提供 周知・広報		
			★ 事業の 評価・検証

プロジェクト 10

担い手育成・支援&創作環境向上プロジェクト

10-1 タレンツ・トーキョー

10-2 とびらプロジェクト

10-3 アート人材の育成・活動支援事業

10-4 芸術系大学等との連携

10-5 芸術文化団体等とのネットワーク会議

10-6 美術館・博物館とのネットワーク会議

10-7 アート・プロボノ等

10-8 アーティストの創作環境の整備

10-9 東京ライブ・ステージ応援助成

(再掲) 7-2 東京芸術文化相談サポートセンター「アートノト」

(再掲) 9-3 TOKASレジデンス

【事業概要】

東京からの文化の創造・発信を強化するため、映画分野における「次世代の巨匠」になる可能性を秘めた「才能（＝Talents、タレンツ）」を育成することを目的に、映画作家やプロデューサーを目指すアジアの若者を東京に招聘して実施。世界で活躍していくためのノウハウや国際的なネットワークを構築する機会を提供する。また、修了生の作品の上映会を実施する。【事業開始年度 平成22年度（2010）】

【3年後の目標】

映画分野における次代を担う「タレンツ」に対し、ネクスト・マスタース・サポート・プログラムなどの継続的支援を行い、国際映画祭等で活躍する映画作家やプロデューサーの輩出を続けることで、東京が映画分野のアジアのハブとして、国内外から認識されている。

【2024年度の実績】

- ・タレンツ・トーキョー（レクチャーラボ）の実施
参加者応募選考により選ばれた17名が参加し、タレンツ・トーキョー2024を実施
会場：有楽町朝日ホールほか
期間：2024年11月25日（月）から12月1日（日）までの7日間
- ・ネクストマスタースサポートプログラム（NMSP）の実施
修了生の応募選考により、企画開発ファンド12名、プロモーションファンド3名、フェローシップ7名（春・秋）を支援
[2024年修了生の主な受賞作品] ※（）内はタレンツ・トーキョー参加年
 - ファン・ゴックラン（2017）監督、ビアンカ・バルブエナ（2012）、ブラッドリー・リュウ（2017）プロデュース『Cu Li Never Cries』ベルリン国際映画祭最優秀初長編作品賞受賞
 - チャン・ウェイリャン（2019）監督『白衣蒼狗』カンヌ国際映画祭カメラ・ドールスペシャル・メンション受賞
 - ネリシャ・ロー（2020）監督『Pierce』カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭最優秀監督賞受賞

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
タレンツ・トーキョー	○レクチャーラボ 公募・審査 ★ 実施（11月） ○NMSP 公募・審査・実施 	事業の評価・検証を反映し運用 ★事業の評価・検証	

10-2 とびらプロジェクト

【事業概要】

東京都美術館と東京藝術大学と市民とが連携し、アートを紹介してコミュニティを育むソーシャルデザインプロジェクト。広く一般から集まったアート・コミュニケータ「とびラー」と、学芸員や大学の教員、そして第一線で活躍中の専門家がともに美術館を拠点に、そこにある文化資源を活かしながら、人と作品、人と人、人と場所をつなぐ活動を展開する。

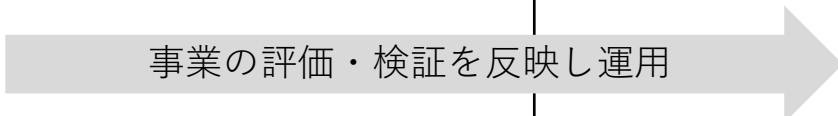
【事業開始年度 平成24年度（2012）】

【3年後の目標】

とびらプロジェクトの任期満了者が都立文化施設や全国各地で活躍するなど、東京都美術館を中心としたアートを紹介したコミュニティのネットワークが広がり好循環が生まれている。

【2024年度の実績】

- ・一般公募の市民である11期、12期、13期のアート・コミュニケータ「とびラー」129名と活動
- ・13期「とびラー」を対象に基礎講座（全6回）を実施
- ・美術館での実践的な場面を想定した実践講座3種（鑑賞実践講座全8回、建築実践講座全7回、アクセス実践講座全7回）を実施
- ・とびらプロジェクトオープンレクチャー（vol15）を実施
- ・とびラーの自主的な活動「とびラボ」を実施
- ・「とびラボ」から発案された企画を東京都美術館にて実施
- ・募集説明も兼ねたとびらプロジェクトフォーラムを実施
- ・14期とびラーを募集、選考

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
とびらプロジェクト	美術館を拠点とした学びのコミュニティの醸成 とびラーによる企画、実施 基礎講座、3種の実践講座を開催	事業の評価・検証を反映し運用 	
			★ 事業の 評価・検証

10-3 アート人材の育成・活動支援事業

【事業概要】

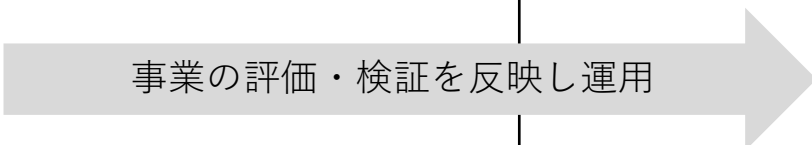
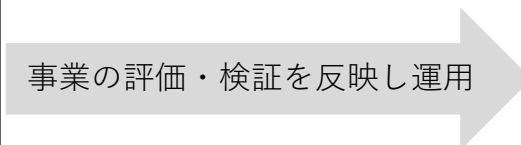
アーティスト等の継続的な活動への支援や活躍の場の拡大に向け、アーティストや担い手の人材データベースを構築し活用するほか、アーティストと区市町村や企業等をつなぐコーディネート機能を歴史文化財団に導入し、アートと異業種等との交流を促進する。【事業開始年度 令和7年度（2025）】

【3年後の目標】

人材データベースの構築やアートコーディネーターを養成することによって、アーティスト等の活動の場が拡大し、企業・団体・区市町村等にとってアーティストが身近な存在になっている。

【2024年度の実績】

東京都及び歴史文化財団が実施している担い手育成事業を体系的に整理するとともに、文化戦略の実現に必要な内容を反映しながら、事業を検討

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
アートコーディネート	・歴史文化財団にコーディネート機能を導入 ・子供事業コーディネーターの育成		★ 事業の 評価・検証
人材データベースの構築・活用	・人材データベースの構築準備 ・有識者等へのヒアリングを実施し、最適なデータの活用を検討	アート人材の情報を集約し、継続的な支援や活躍の場の拡大に活用	

【事業概要】

芸術系大学等との会議体を立ち上げ、都と大学等との共有の場を設けるとともに大学側のニーズを把握し、新人アーティスト等が持続的に活動できるよう施策へ反映する。【事業開始年度 令和5年度（2023）】

【3年後の目標】

教育現場から見える課題を新人アーティスト向けの支援策に反映して創作環境の改善に結び付けることや、こども向けの芸術文化体験事業で連携を図り若年層の興味関心を醸成するなど連携を深めることで、東京からアーティストが輩出され続ける土壌が一層形成されている。

【2024年度の実績】

「芸術系大学等との連携会議」を開催し、アーティスト等に対する支援や東京都の取組等の情報を提供するとともに、「ネクスト・クリエイション・プログラム」や「東京芸術文化相談サポートセンター」について意見交換を実施。

開催時期：2024年7月

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
芸術系大学等との連携	会議開催 随時の情報提供	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

【事業概要】

芸術文化団体等とネットワークを形成し、必要な情報提供や意見集約に係る会議を行うとともに、都の施策に反映していく。

【事業開始年度 令和4年度（2022）】

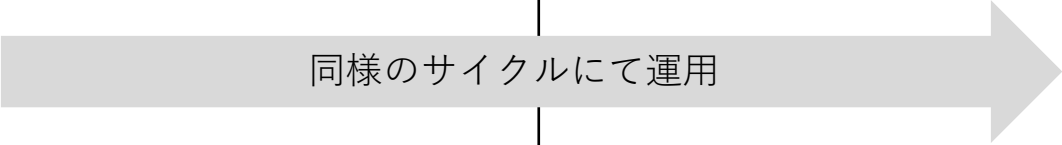
【3年後の目標】

ネットワーク会議等を通じて、行政施策の方向性を共有し支援策や事業で連携を図り、芸術文化団体等が継続的に充実した活動ができるよう、行政課題や現場のニーズを反映した施策を展開できている。

【2024年度の実績】

芸術文化団体とのネットワーク会議を実施し、アーティスト等に対する支援や東京都の取組等の情報を提供するとともに、芸術文化へのアクセシビリティ向上やハラスメント防止に向けた取組について等意見交換を実施。

開催時期：2024年7月・2025年2月
参加団体：のべ45団体参加

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
芸術文化団体等との ネットワーク会議	会議開催 随時の情報提供	同様のサイクルにて運用 	

10-6 美術館・博物館とのネットワーク会議

【事業概要】

新たに都内美術館・博物館と東京都がネットワークを構築し、意見交換できるプラットフォームとして、美術館・博物館ネットワーク会議を立ち上げ、必要な情報提供や意見集約に係る会議を行うとともに、都の施策に反映していく。【事業開始年度 令和7年度（2025）】

【3年後の目標】

ネットワークが構築され、共生社会の実現や持続可能な社会に向けて美術館・博物館が果たすべき役割や好事例等を共有・連携できている。

【2024年度の実績】

2025年度新規事業

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
美術館・博物館とのネットワーク会議	会議開催 随時の情報提供	同様のサイクルにて運用	

10-7 アート・プロボノ等

【事業概要】

芸術文化活動を支えていくため、都民や民間企業の支援を後押しするとともに、企業で培った経験やスキルを生かしたボランティア活動であるプロボノを増やす取組を推進する。

【3年後の目標】

様々な事業の枠組みの中で都民や民間企業がアーティストと接点を作り支援の機運を醸成しながら、他自治体の先行事例等も参考に芸術文化活動を支える効果的な施策を検討し、事業構築を図っている。

【2024年度の実績】

芸術文化活動へボランティアを活用する施策や事例を調査するとともに、アーティスト育成事業の中で企業との連携・支援につながる取組を試行

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
アート・プロボノ等	事業スキームの検討、実施に向けた準備等		

10-8 アーティストの創作環境の整備

【事業概要】

アーティストが活動する上で必要となる稽古場、アトリエ、スタジオ等の利用に係る負担を軽減させることで、継続的な活動を支援する。遊休施設等を活用し、アーティストの創作の場、交流の場として低廉な価格で提供する。 【事業開始年度 START Box：令和5年度（2023）、水天宮ピット：平成22年度（2010）】

【3年後の目標】

START Boxとして新たなアトリエや稽古場を整備するほか、地域住民との交流会や作品発表の場を提供するなど、多面的な支援を通じて、アーティスト等の創作活動の場、交流の場の充実が図られている。

【2024年度の実績】

- ・ START Box ササハタハツ、START Box お台場、水天宮ピットを運営
- ・ START Boxのオープンアトリエや文化イベントでの作品展示等を通じて、地域との交流や発表の機会を創出

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
START Boxの運営	継続的にアトリエ等を提供するとともに、地域住民との交流を促進 稽古場等の新規整備	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	
水天宮ピットの貸出運営	継続運営	事業の評価・検証を反映し運用 ★ 事業の 評価・検証	

10-9 東京ライブ・ステージ応援助成

【事業概要】

芸術文化の創造・発信を支援するため、東京の芸術文化の多様性を支える中小の団体による舞台芸術（演劇、舞踊、音楽等）活動に対する支援を実施する。【事業開始年度 令和5年度（2023）】

【3年後の目標】

中小の団体による舞台芸術（演劇、舞踊、音楽等）活動を支援し、東京の多様で豊かな芸術文化環境が維持されている。

【2024年度の実績】

助成上限額：100万円

助成率：1/2

申請受付：第1期 2024年4月17日～5月9日

第2期 2024年9月4日～9月26日

採択（申請）：第1期 154件（263件）、第2期 162件（290件）

年度	2025年度計画	2026年度計画	2027年度計画
東京ライブ・ ステージ応援助成	東京の芸術文化の多様性を 支える中小の団体による舞 台芸術（演劇、舞踊、音楽 等）活動を助成により支援	—	—